

令和2年度学校評価報告書

令和3年2月25日
渋谷区立笹塚小学校

1 学校の教育目標

法に定める学校教育の目標およびまた東京都ならびに渋谷区教育委員会の教育目標を受け、児童一人一人が自分の個性を伸ばし、変化の激しい未来を生き抜く先進的で柔軟な考えを育むことを目指す。

- 互いの違いを認め 高め合う子
- ◎ 主体的に学び 創造する子
- 心身をきたえ たくましい子

2 本年度の重点目標

主体的に学び、他者と協働して新しい価値観を創造し、自分の個性を伸ばすことのできる子供の育成を目指す。「主体的に学び 創造する子」を重点目標とし、国語科を柱として、基礎・基本の定着を図り、「主体的・対話的で深い学び」を通して、思考力、判断力、表現力等を育み、学びに向かう力、人間性等を養う教育を推進し、一人一人の児童の生きる力の向上を図る。

3 自己評価結果と学校関係者評価の状況

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価	改善策
学校の様子	学校は、子供たちが明るく、楽しく生活する雰囲気になっていますか。	3	感染防止対策を講じた上で、可能な限り学校行事や日々の学習活動を充実させていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍で制約の多い状況ではあったが、学校の雰囲気は良く、児童も概ね楽しそうにしている。今後も、事態の推移を見つつ臨機応変の処置をとる学校運営の工夫に期待する。			
	学校関係者評価を受けての変更点等	アンケートで1割の児童が否定的な回答をしている。日々の授業が楽しいと感じられるように、学校行事を通して充実感や達成感を味わえるように、教育活動を工夫していく。			
教育活動と子供の様子	学校は、分かりやすい授業の実施に努めていますか。	3	研究発表の成果や課題を生かして、できる・分かるようになる授業改善につなげていく。	A	A
	学校は、思いやりをはぐくむ心の教育をすすめていますか。	3	道徳科を中心とした心の教育の充実を図り、特別活動における関わりをさらに工夫していく。	A	A
	学校は、いじめの未然防止、早期発見に向けて取り組んでいますか。	2	いじめ調査の結果(件数や学校の対応等)を可能な範囲で公開し、取組への理解を図っていく。	A	A
	学校は、一人一人の個性を伸ばす教育活動をしていますか。	2	インクルーシブ教育を推進するとともに、各学級における違いを認め合う風土の醸成を図る。	A	A
	学校は、学力向上を目指した取組をしていますか。	3	タブレットの活用を含め、個に応じた基礎の定着、思考力・判断力・表現力等を伸ばす指導を行う。	A	A
	学校は、学習効果を高めるためにタブレット等のICT機器を活用していますか。	4	現在の取組をさらに充実させるとともに、新たな活用方法にも積極的にチャレンジしていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	児童の理解を確認しながら、学習への参加を促すよう工夫された授業が展開されている。タブレットの活用にも発展が見られ、昨年度に比べ、より一層の成果が見られる。			
学校関係者評価を受けての変更点等	道徳教育の充実、インクルーシブ教育の推進にもつながるとの指摘をいただいた。より一層の充実を図っていく。またタブレットを個への対応ツールとしても活用を図っていく。				

様式1-2 (小学校)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価	改善策
教職員	教職員は、子供たちのことをよく理解しようとしていますか。	3	学年会や生活指導夕会における情報共有を継続させ、関係諸機関との連携もさらに強化する。	A	A
	教職員は、誠意をもって相談に応じていますか。	4	保護者や地域からの意見・要望には、迅速かつ丁寧な初期対応、組織的な対応を行うようにする。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	保護者アンケートに教員への感謝の言葉が多く見られ、個々の児童への対応がしっかり行われていることが分かる。授業以外でも児童の状況を把握した指導がなされている。			
	学校関係者評価を受けての変更点等	「分からない」を除く肯定率が高く「十分達成」の割合が最も高いことや、保護者アンケートの記述内容から、達成状況は上げてよいとのご意見をいただき、「3」→「4」に修正した。			
教育環境整備	学校は、子供たちの安全に対する配慮をしていますか。	4	安全点検や安全指導を確実に実施し、児童自身の危険を回避する意識や能力も育成していく。	A	A
	学校には、教育に必要な施設・設備が整っていますか。	3	CS・PTA等の意見も聞きながら、限られた予算を効果的に活用し、計画的な施設設備の充実を図る。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	登下校時の見守りなど地域との連携も有効であり、感染症予防も配慮されている。施設・設備の整備については、教職員の見地からの将来構想を描いてみることも期待される。			
	学校関係者評価を受けての変更点等	委員より、「十分でない」と感じている教員が多いのが気になる、との指摘があった。教員視点での改善の必要感について調査して整理し、整備計画に反映させていく。			
家庭・地域との連携	学校は、教育の方針を分かりやすく伝えていますか。	3	学校ホームページのさらなる充実、連絡アプリの効果的な活用を図り、積極的に情報を発信する。	A	A
	学校は、保護者や地域の願いにこたえようとしていますか。	3	行事や公開後に毎回アンケートを取り、保護者や地域の意見・要望等を聞き取るようにしていく。	A	A
	学校は、CSとして地域との連携に努め、教育活動を充実させようとしていますか。	2	コロナ禍における地域連携の在り方を考え、時期や方法を工夫しながら連携を拡充していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍における情報発信の方法を工夫している点は評価できる。デジタルと紙媒体のバランスや情報発信の頻度など、保護者や地域の声を丁寧に聞き取りながら工夫されたい。			
	学校関係者評価を受けての変更点等	受け手への伝わり方を見ながら、情報伝達に係る量的・質的な改善を図っていく必要がある。また特に要望に応えるのが難しい案件などについては、丁寧な説明を心掛けていく。			

4 令和2年度学校評価のまとめ

学校関係者評価委員会では、コロナ禍で様々な変更や制約が余儀なくされた中、様々な工夫をして今年度の教育活動を実施してきたことについては評価できる、との見解をいただいた。また、自己評価（達成状況や改善の方策）についても、概ね適正であるとの評価であった。感染症対策についてももしっかり実施されており、「新しい学校生活様式」にも、児童はすっかり適応しているようだ、という意見も出された。ICTの活用を含め様々な改革を行ってきたことについては、一定の評価ができるとしつつも、保護者や地域の声を十分に聞きながら丁寧に進めていくことの必要性についてご指摘いただいた。いただいたご意見を参考にしながら、引き続き社会の感染状況を注視しつつ、臨機応変に対応できるよう、柔軟な教育課程を編成していくこととしたい。

以上のとおり相違ありません

渋谷区立笹塚小学校長 荒木 憲 秀
 学校関係者評価委員長 橋本 健一